

モーテン・シレーン  
Mårten Sjöen プロダクト・デザイナー

# 深い緑にとけこむ、 郊外型の手づくりガレージ・オフィス



もともとあったガレージの2階部分を増築。しかし、周りと協調するように外壁はシンプルに深い緑に塗った。

work  
at  
home



デザインなどはこの2階のパソコンで。細長いオフィスのほぼ中央にモーテンは座り、部屋全体が見渡せる。



2階の窓際には、シレーンがデザインしたカトラリーやボウルのプロトタイプなどが置かれている。



ガレージの1階は、制作工房。2階のデザインルームと隣接しながら、行き来しながら作業する。



窓にはガラス板のつえにミニチュア椅子。ルーバーと椅子状になく、センスを感じるディスプレイ。



オフィス入り口を入ると、壁とテーブルが白で統一されている。中央奥が長く伸びるクリップボード。

ストックホルムの中でもガムラスタン地区（旧市街）では、文化遺産の住宅が多く、狭いうえに改装もままならない。そんな環境に見切りをつけたモーテン・シレーンは、郊外に飛び出した。そして手に入れたのが、緑に囲まれた二戸建てのホーム・オフィスだ。

もともとついていたガレージを、インテリア・デザイナーである妻の協力を得て増築することに。

「第一に考えたのは、周囲に迷惑にならないこと。隣家の日照を確保し、緑と同化するように外壁も塗り替えた」

環境にうまくとけ込むオフィスはシレーンの狙い通り。しかし、内部は目にも眩しい白の壁が北欧らしい。家具や照明などのデザインを得意とするシレーン。思いついたデザイン画で、オフィスはすばいっばいになってしまった。それを象徴するのが、長く伸びたクリップボード。整理できないのなら美的に散らかしてしまおう、という発想らしい。デザインが完成したら、階下の工房ですぐにプロトタイプの制作。椅子くらいならすぐに組み立て終わり、白い棚にのせたら「吟味」だ。

なんとも素材で手作りの味が伝わるガレージ。緑を背景にしたその姿を眺めていると、日本でも決して不可能ではないと思えてくるのだ。



●1958年ウプサラ生まれ。コンスタックデザイン国立大学卒業。84年からデザイン活動を始め。イケアなどのデザイナー。7つのプロダクトがスウェーデンのグッドデザイン賞を獲得。